

文科系学生が主体の学部横断・地域課題解決型のデータサイエンス教育

基礎から実践、専門分野へステップアップ！ 星槎道都大学の数理・データサイエンス・AI教育プログラム

建学の精神

社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り拓き、それを成し遂げる。

各学科で「プロ・ポリシー」

「知識・技能」「表現力」「判断力」「思考力」「主体性を持って様々な人々と協働して学ぶ態度」

本教育プログラムの目的

Society5.0をはじめとした情報技術の急速な発展（社会の変化）に対応するため、経営・社会福祉・デザイン・建築の各専門分野における専門知識・技能を持ち、それらの人々と協働してICT・データサイエンス・AI・IoTなどの情報技術の知見で考え、利活用して表現することで、さらなる課題解決や社会貢献ができる人材を育成する。

本学の特徴と本教育プログラムの特徴



多彩な3学部4学科の文科系小規模総合大学

学部横断教育
少人数教育



アクティブラーニング実践
密着型の教育支援

学生の主体的な学びを
促すプロジェクト型授業



北海道北広島市にある
ただ1つの大学

包括連携協定による
密な地域連携

学習支援の取り組み

文科系学生にとって わかりやすい教材・授業展開	文科系学生にとってのわかりやすさを重視し、e-Learningの動画・スライド教材をはじめ、教員作成の教材（数式や数的な理論を噛み砕いて説明する補助資料）を公開・配信している。
基礎・実践・専門分野へ ステップアップする体系	学生の興味・関心に合わせて履修可能なカリキュラム体系としている。いずれの科目も1・2年次に開講することで、早期にデータサイエンスの基礎知識や関心度合いを高め、その後の各専門分野での学習を通して利活用する方法を見出すことを促進している。
教育の個別化の強化	「データサイエンス基礎」では、小テストや課題提出によって測定された理解度に応じて、個別指導・補講を実施。「データサイエンス・プログラム」では、複数の教員によりチームごとに取り組み状況を把握し、必要に応じて個別に知識・技能のフォローアップを行っている。
グループウェア活用による 授業時間外の学習支援	Microsoft Teamsのチャットを用いて、授業時間外でも担当教員に問い合わせができるよう学習環境を整備している。質問の多い事項については、担当教員が動画教材を作成・配信して共有している。
学習状況の可視化	「データサイエンス基礎」では、LMSを活用し学習の取り組み状況や理解度を細やかに把握。「データサイエンス・プログラム」では、チームごとにTeams上で調査資料や作成資料のアップロードや課題提出を実施することで、個人・チームの成果を可視化している。

カリキュラムマップ

データサイエンス教育プログラム

<プログラム修了要件>
「データサイエンス基礎」2単位を修得すること。

入門 データサイエンス基礎
(全学共通教育必修・1年次)

データサイエンスの基礎的素養を習得し
専門分野で応用するための土台をつくる

ステップアップ

実践 データサイエンス・プログラム
(全学共通教育選択・2年次)

地域社会の課題をテーマとしたPBLで
データ分析・AIの実践力育成を図る

データサイエンス関連科目

情報基礎演習Ⅰ (1年・必修)	統計学入門 (2年・選択)	数学入門 (1年・選択)	キャリア支援演習 (1～4年)
情報基礎演習Ⅱ (2年・必修)	基礎統計演習 (2年・選択)	環境学入門 (1年・選択)	卒業論文 (4年)



▲グループワーク・発表



▲データ分析の演習



▲北広島市役所での報告会